

令和元年5月31日

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
校長 金田喜明様

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
学校評価委員会委員長 江原誠一

令和元年度 「学校関係者評価」について

東京農業大学第三高等学校・同附属中学校（以下、学校という）から提示された「自己評価」等の関係書類の説明・報告を受け、学校評価委員会として、学校関係者評価をしました。委員会としての意見をまとめ、以下のように報告・提言致します。

1 農大三高・三中の「学校改革」について

平成30年度は、東京農業大学第三高等学校・同附属中学校内に設置された「改革改善委員会」の答申に基づき設置された新コース制の完成年度としての報告が詳細になされました。また、平成30年度に実施された教育内容・生徒募集の改革についても説明がありました。

- (1) 新コース制〔Iコース（進学重視）・IIコース（文武両道）・IIIコース（スポーツ科学）・中高一貫コースの4コース制〕の完成年度を迎え、高校各コースでの特色ある教育内容の改革・中学校の教育内容の改革が、教育方針の三本柱（大胆なグローバル化、実学で真の学力を育てる、学内完結型学習体制）に基づき実施されたとの報告がありました。
- (2) 学校の教育内容改革をもとに実施された生徒募集活動状況および、高校入試・中学入試における入試結果・入学生徒数等の報告がありました。
- (3) 高校の新コース制による主な大学合格状況及び進学決定状況の報告がありました。
- (4) 運動部・文化部の活動状況および、全国大会出場（陸上競技部・チアリーダー部）や関東大会出場（野球部：埼玉県準優勝・剣道部）等、成果の報告がありました。
- (5) 進学実績向上の対策として、授業アンケート結果のフィードバックによる研修や、放課後の外部講師による講座開設等に取り組むこと、また、Wi-Fi環境整備工事を実施し、来年度から入学生全員にタブレットを持たせる予定など、学習環境整備の計画についても報告がありました。

これら、改革改善の実施報告に対して、本委員会としても理解し助言していくことを表明しました。

2 以下、委員会で委員より出された意見を列挙します。

- (1) 入学生徒増加の要因については、中学校・学習塾への訪問回数の増加、施設等環境整備の充実、自習室の設置、野球部の活躍等が挙げられる。これら改善や取り組みを今後も実施してほしい。
- (2) 保護者会活動に対して、生徒のための保護者会活動となるよう、学校の協力をお願いしたい。
- (3) 進学実績を向上させる必要があるので、目標設定・達成方法の改善を望む。増加した入学生を責任もって教育することが学校評価に直結するからである。特に、高校教諭は、生徒の教科指導にあたり、中学校の教科書に目を通し、生徒たちが何を学んできたのかを把握してほしい。
- (4) 自分から進んで学習する姿勢を生徒に身につけさせることが、進学実績の向上への近道である。学校全体で、生徒が積極的に学習に取り組めるようになる教員側の研究を、教科・担任・学年レベルで進めてほしい。
- (5) 中学・高校別のパンフレットではなく、一体感をアピールする方がわかりやすい。
- (6) 地元地域との交流が非常に大切だと感じている。交流が盛んになってからは、農大三高に興味を持ち、部活動の活躍に興味・関心を示し、農大三高を応援するようになっている。

委員会として、これからも学校改革がどのように進展していくのか注視し、さまざまな提言をしていく所存です。